

キタキツネ

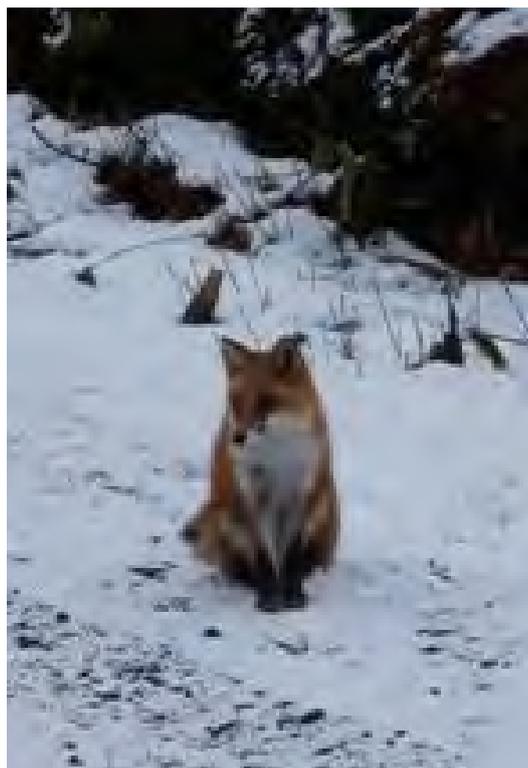
澄川森林で作業前のラジオ体操を皆でしていました。誰かがキツネが近づいているのに気づきました。体操をしながら皆で見えていますと恐れる気配もなく近寄ってきます。明らかに人間どもが何やってんだらうと好奇心満々の様子なのです。声をかけるとさらに近寄ってきました。今年生まれの親離れしたばかりの若キツネだと思われました。カメラを向けても逃げません。お行儀よくお座りのポーズをご覧ください。2012年11月22日9時半頃と記録しておきます。



澄川の森では雪の上の足跡を見るだけでも縄張りを毎日くまなくパトロールしていることがよく分かります。目撃したことも2度や3度ではありません。巢も2箇所を確認しています。仔ギツネを遊ばせるオモチャとしてスニーカーなどを与えていることも確認しています。作業道や木橋の上の糞を見ることもしばしばです。

北海道に棲むキツネはキタキツネと称してホンDIGツネと区別されています。図体がすこしホンDIGより大きいだけで、生態はほぼ同じようですが、キタはユーラシア大陸からカラフトに分布しているアカキツネの亜種とされていてホンDIGとは別種です。青函トンネルが開通してからトンネルをくぐって青森に渡った冒険キツネが確認されていて、本土では北から南下して分布を広げる可能性があるようです。

少年時代を過ごした九州ではキツネにまつわるいろいろな話が沢山あって、人を化かす話が殆どだったと記憶しています。顔つきからして狡猾な感じがするので誤解されているようです。他方ではお稲荷さんとして神様になっているのですから、人間とのかかわりが歴史以前から濃かったものと思われま



人間との関わりではエキノコックスの最終宿主として嫌われています。厄介な寄生虫のようですが、私の知る範囲では感染者はいませんのでそれほど心配もしていませんが、澄川の沢の水は飲まないようにしています。澄川ばかりでなくわれわれが関わっている森の全てで自然の水を飲まないように気をつけましょう。

以前に当別の青山から厚田に抜ける峠道で、車にまとわりついてくる3匹の若キツネに迷惑されたことがありました。誰かが車の中から食べ物を与えたらしくて、スピードをゆるめざるを得ない近寄り方で、轢きそうになるので困りました。キツネは利口なので学習能力が高く、餌付けはダメとされていますので、澄川でも餌は与えたことはありません。

←脚の先に向かって黒毛がグラデーションになっているのがキタキツネの特徴です。